

## 7月豪雨の概要及び被害の状況

## 1. 平成30年7月豪雨の概要

## (1) 気象の概要

6月28日以降北日本に停滞していた梅雨前線が、太平洋高気圧が南東に移動したことで、7月5日には西日本まで南下し、その後停滞、そして6月29日には台風第7号が発生し、太平洋高気圧の外側を回り込むように東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、7月4日15時に日本海で温帯低気圧に変わりました。

これらの気象状況から、西日本地方では台風の影響による雨が7月3日頃から降り続いていましたが、特に7月5日から8日にかけては、西日本から東日本に停滞した梅雨前線に向かって台風7号の影響によりもたらした暖かく湿った空気が断続的に流れ込み、梅雨前線が活発化し、9日に北上して活動を弱めるまで日本上空に停滞し、西日本から東日本にかけて広い範囲で記録的な大雨となったものです。

図1 気象レーダーと天気図



出典 気象庁報道発表

## (2) 大雨等の状況

6月28日から7月8日にかけての総雨量は、四国地方で1800mm、東海地方で1200mmを超えるなど、7月の月降水量平年値の2から4倍となりました。

本市においても7月5日から降り始めた雨は、7月7日には時間雨量100mmに迫る記録的大雨となりました。

表1 気象庁観測所による県内の期間中降水量

(7月5日00時～8日24時) 【単位：mm】

市町村名	地点名	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日	期間合計
鬼北町	近永	80.5	132.0	221.5	137.0	571.0
西予市	宇和	70.5	178.0	229.0	62.0	539.5
西条市	成就社	103.0	224.0	118.5	23.0	468.5
今治市	今治	90.0	240.0	117.0	16.5	463.5
内子町	獅子越峠	87.5	189.0	153.0	32.0	461.5
今治市	玉川	64.5	240.0	108.5	14.5	427.5
今治市	大三島	75.0	207.0	117.0	15.5	414.5
八幡浜市	八幡浜	39.5	153.5	183.5	20.5	397.0
伊予市	中山	46.5	171.5	159.5	18.0	395.5
<b>宇和島市</b>	<b>宇和島</b>	<b>39.0</b>	<b>88.5</b>	<b>186.5</b>	<b>67.5</b>	<b>381.5</b>

出典 気象速報 松山地方気象台

※気象庁による宇和島市の観測地点：宇和島市住吉町

表2 国土交通省等による本市の主な観測地点の累加雨量

(7月5日2時～8日22時) 【単位：mm】

観測地点	累加雨量	1時間あたりの最多雨量		
		日付	時間	雨量
<b>津島(上楨)</b>	<b>919.0</b>	7月7日	8時	53.0
津島(御楨)	666.0	7月7日	7時	37.0
三間(三間)	493.0	7月7日	7時	61.5
吉田(玉津)	469.0	7月7日	7時	91.0
吉田(吉田)	453.0	7月7日	7時	74.0
<b>吉田(奥南)</b>	372.0	7月7日	7時	<b>96.0</b>
津島(岩松)	352.0	7月7日	8時	52.0
宇和島	336.0	7月7日	7時	49.0
津島(由良)	327.5	7月7日	8時	80.5
宇和島(宇和海)	322.5	7月7日	7時	50.0

出典 国土交通省市町村概況(河川の水位と雨量の状況)

(参考) 宇和島市内観測地点(雨量計)位置図



## (3) 警報・注意報等の発表状況

7月8日5時50分、宇和島市に大雨特別警報が発表されました。(7月8日14時50分解除)

表3 松山地方気象台等が発表した情報

(7月5日00時～8日24時)

日時 / 項目	波浪 注意報	雷 注意報	強風 注意報	洪水 注意報	大雨 注意報	洪水 警報	大雨 警報	土砂災害 警戒 情報	記録的 短時間 大雨情報	大雨 特別警報
7月5日1時22分	○	○			○					
7月5日9時14分	↓	↓	○	○			土			
7月6日4時25分	↓	↓	○				↓	○		
7月6日4時49分	↓	↓	○			○	↓			
7月7日2時32分	↓	↓	○			○	↓			
7月7日6時28分		↓					↓		○	
7月7日7時46分		↓					↓		○	
7月7日15時49分		↓		○			↓			
7月7日19時04分		↓		○			↓			
7月8日5時50分		↓		○						土
7月8日6時10分		↓				○		6:05 解除		↓
7月8日14時50分		↓		○			土			

出典 気象速報 松山地方気象台等

(補足)

浸：浸水害 / 土：土砂災害 / 土浸：土砂災害、浸水害

大雨特別警報：台風や集中豪雨によって数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表される。

土砂災害警戒情報：重大な土砂災害が起こるおそれがあるとき、気象庁と都道府県が共同で発表する警報。

記録的短時間大雨情報：数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測・解析したりしたときに気象台が発表。

表4 宇和島市災害対策本部の配置・避難勧告等発令の状況

(7月5日9時～9日12時)

日時	内容		
	項目	対象	地域
7月5日 9時14分	宇和島市災害対策本部設置		
7月6日 5時00分	避難勧告発令	1,059 世帯/ 2,177 人	津島町御槇、上槇、清満地区の土砂災害警戒区域等
7月7日 7時00分	避難勧告発令	37,321 世帯/79,430 人	市内全域の土砂災害警戒区域等
7月7日 9時00分	避難勧告発令	2,394 世帯/ 4,565 人	和霊中町ほか須賀川周辺地域
7月9日 12時00分	避難勧告解除		

## 2. 被害の概要

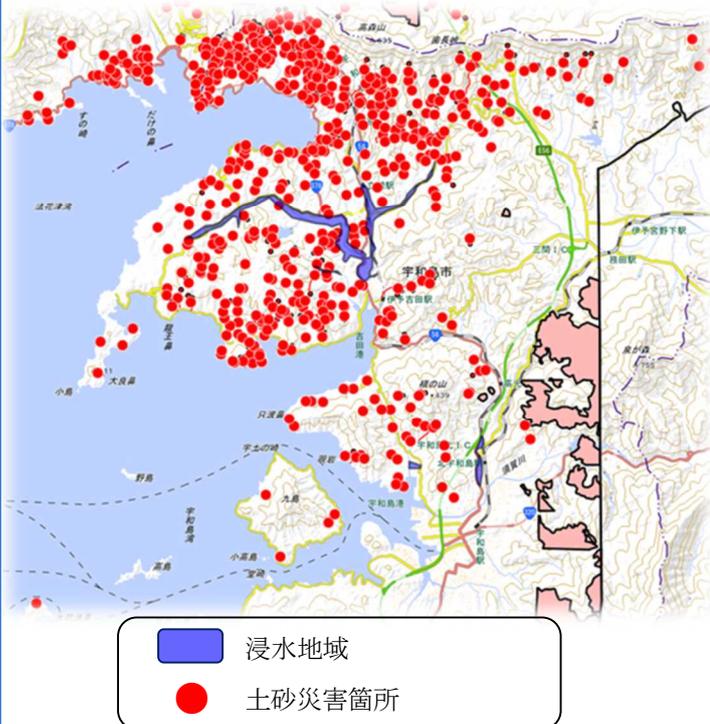
7月5日から降り始めた雨は、市内各所で浸水被害や土砂崩れが多発するなど未曾有の豪雨災害となり、これらの影響により本市では12名の尊い命が失われるとともに、市民の財産、道路・河川・橋梁といった公共インフラ、商店や工場及び柑橘園地等の産業基盤等に甚大な被害が発生しました。



### (1) 浸水被害及び土砂崩れの状況

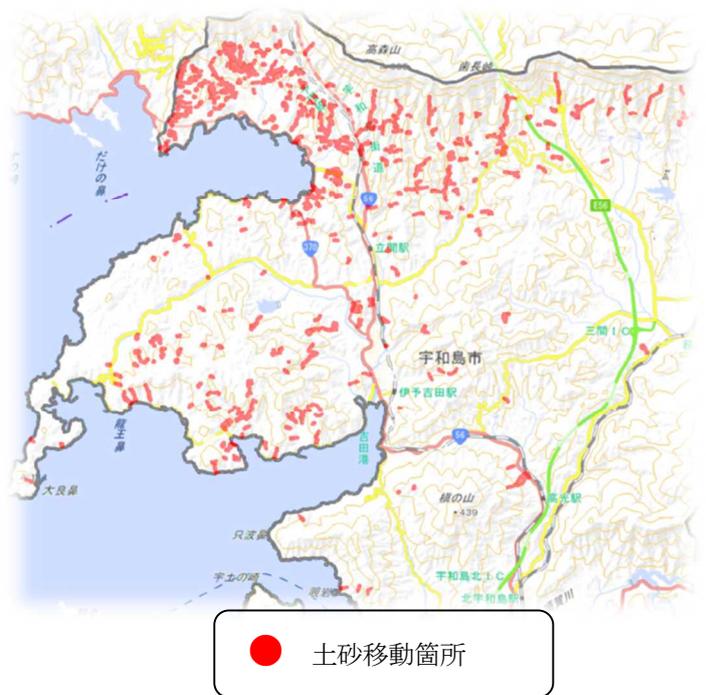
記録的な豪雨により、吉田地区の河内川や立間川などでは流下能力を超える河川の氾濫が起き、広範囲で数多くの浸水被害が発生するとともに、市内各所で多数の土砂崩れが発生し、家屋や農地などが甚大な被害を受けました。

図2 豪雨災害における洪水浸水地区の状況



出典 国土地理院※浸水地域：市加工

図3 豪雨災害における土砂移動痕跡判読



出典 (株) パスコ

## (2) 人的被害に関する状況

本市では、12名（直接死11名、関連死1名）の尊い命が奪われ、24人の方が重度の負傷を負われました。

表4 人的被害に関する一覧 (9月25日現在)

死 亡	負 傷	行方不明者
12人	24人	0人
災害関連死1名を含む	被災見舞金申出者数	

## (3) 住家被害に関する状況

河川の氾濫や土砂災害により、住宅や事業所等の浸水や倒壊が多く発生し、特に被害が集中した吉田地区では、多くの住民が避難所生活を強いられることになりました。

表5 住宅被害に関する一覧 (10月1日現在)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
60棟	102棟	781棟	705棟



表6 避難所に関する状況

(7月8日14:00現在)

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
避難所	12箇所	24箇所	3箇所	2箇所	41箇所
世帯	37世帯	526世帯	54世帯	11世帯	628世帯
避難者数	67人	977人	92人	13人	1,149人

※宇和島市全体での避難者数等最大値

(4) 生活基盤施設等の被災状況

豪雨の影響により、園地を中心とした斜面崩壊や土石流が発生し、土砂等による道路の埋塞や橋梁への流木の集積による河川氾濫が多数発生し、生活基盤である交通ネットワーク等が分断されるとともに、ライフラインについても停電や断水が発生しました。

とりわけ、土石流により破壊的な被害を受けた吉田・三間地区における浄水施設では、浄水・給水機能が失われたため、長期間にわたり断水状態に陥りました。

表 7 生活基盤施設等の被災状況

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計	備考
水道（断水）	－	9,867 人	5,450 人	－	15,317 人	7月7日現在
電気（停電）	1,571 戸	5,872 戸	780 戸	－	8,223 戸	7月7日現在
道路	19 箇所	584 箇所	23 箇所	18 箇所	644 箇所	9月28日現在
河川	23 箇所	146 箇所	0 箇所	17 箇所	186 箇所	9月28日現在
港湾施設	0 箇所	1 箇所	-	0 箇所	1 箇所	9月28日現在
漁港施設	6 箇所	3 箇所	-	5 箇所	14 箇所	9 漁港 9月25日現在
農地・農業用施設	116 箇所	1,602 箇所	100 箇所	15 箇所	1,833 箇所	9月25日現在
林地・林道	7 箇所	108 箇所	20 箇所	4 箇所	139 箇所	9月25日現在



## (5) 産業等の被災状況

浸水や土砂流入等により多くの事業所で店舗や生産設備が被災するなど、商工業分野でも甚大な被害を受け、特に被害が集中した吉田地区では、中心街の商業者が多くの浸水被害に遭いました。

また、園地では斜面崩壊や土石流が発生し、柑橘農家をはじめ、多くの地元農業者が甚大な被害を受け、今後、災害復旧・復興が長引くことになれば、発災時の被害だけでなく、担い手の高齢化が進む中で、若手人材の流出による地域そのものの衰退が懸念されています。

なお、今回の豪雨災害では、直接的な被害に限らず、吉田地区、三間地区内については、約1ヶ月断水が続いたことや、三間地区については、通水後も飲用可となるまでさらに1ヶ月以上を要したことにより、多くの農家や事業者等に支障をきたす状況となりました。

表8 商業事業者の状況

(9月26日現在)

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
被災事業者	89社	201社	9社	2社	301社

表9 農業関係者被災証明書発行状況

(9月30日現在)

	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	合計
農業者	10人	66人	1人	1人	78人

